

オオオニバス類交配採種記録

高井敦雄

オオオニバス (*Victoria amazonica*)、パラグアイオニバス (*V. cruziana*) の種子の採取および交配によるロングウッドオオオニバスの作出を行ったので報告する。

例年オオオニバスの試乗体験会が終わるまでは、蕾を除去し、体験会終了後から開花させ、交配を開始している。しかし、今年は8月18日から始まる夜間開園時でのオオオニバス類の開花を考慮し、8月上旬から蕾の除去をやめ、試乗会前の8月20日から交配を開始した。

栽培株数は、オオオニバス、パラグアイオニバスとも1株であり、鉢サイズはオオオニバスで幅、奥行きともに180cm、深さ65cmの木栞で、パラグアイオニバスは直径80cm、深さ50cmのFRP鉢である。なお、オオオニバスと同サイズの残りの木栞2鉢は、試乗会用の葉の調達のため、ロングウッドオオオニバス2株を栽培している。

結果は表のとおりであった。オオオニバスの採種数は117~403、パラグアイオニバスは24~165であったが、両者で採種数に大きな開きが出たのは、株の大きさに起因すると思われる。

オオオニバスの生育ピークは7月下旬で、最大葉直径140cmとなったが、その後比較的早く衰えていった。交配開始時の最大葉直径は約120cmであった。パラグアイオニバスも生育ピークは7月下旬で最大葉直径約70cm、交配時は同60cmで、オオオニバスとは異なり、12月まで徐々に小さくなった。

9月10日以降の交配は、株の負担を考え、行わなかった。

交配の時間帯の比較では、オオオニバスでは朝と夜で採種数の差はなかった。パラグアイオニバスでは、朝の方が良い結果となったが、両種とも実施回数が少な過ぎ、一概には言えないと思われる。

ロングウッドの作出では、1日目の花に受粉する方が2日目の花に受粉するよりも採種の成績が良いと言われているが、2日目の花に受粉した方が良い結果となるが多かった。

いずれにしても、実施回数が少なすぎるため、今後実施数を増やし、効率の良い交配方法の傾向をつかんでいきたい。

表. オオオニバス類の交配時および採種の状況

交配日	時間	交配	採種日	採種数	備考
8.20	20:00	V. amazonica 2日目セルフ	10月上旬	117個	
8.20	20:00	♀V. cruziana 2日目 × ♂V. amazonica 2日目	10.01	53	前日V. cruziana除雄
8.23	20:20	V. cruziana 2日目セルフ	10月上旬	36	
8.23	20:20	♀V. amazonica 1日目 × ♂V. cruziana 2日目	10月上旬	108	当日V. amazonica除雄
8.26	20:00	V. cruziana 2日目セルフ	10月上旬	24	
8.28	9:00	V. amazonica 3日目朝セルフ	10月上旬	277	
8.30	20:00	V. amazonica 2日目セルフ	10月上旬	207	
9.02	9:15	V. cruziana 3日目朝セルフ	10.15	165	
9.02	20:40	V. amazonica 2日目セルフ	10月上旬	403	
9.06	19:40	♀V. amazonica 2日目 × ♂V. cruziana 2日目	10月上旬	247	当日V. amazonica除雄
9.10	19:00	♀V. cruziana 2日目 × ♂V. amazonica 2日目	10月上旬	130	当日V. cruziana除雄